

山梨県立ろう学校 第3回 学校運営協議会

日 時：令和5年2月22日（水） 14：00～15：30

場 所：山梨県立ろう学校 文化交流会館 交流ホール

○学校運営協議会 （13：55～

《次第》司会 教頭

1 はじめの言葉（司会）

2 学校長あいさつ

- ・今年度より2学期制に変更した。じっくり丁寧な指導ができた。学期の切り替えが難しかった等の課題があったが来年度の課題としたい。
- ・他学部を参加できる保護者の授業参観ができなかった。来年度は状況を見ながら実施していきたい。
- ・交流においてはコロナの状況に応じた交流ができた。オンラインでの交流についてより良い形を模索していきたい。
- ・百周年はろう学校を知っていただく良い機会となった。
- ・関東聾学校研究大会から得た成果を今後の研究に生かしていきたい。
- ・今年度より高等部1年生のBYODが始まった。すべての学部でよりよいICT活用を考えていきたい。
- ・コロナ対応について、迅速な対応をしていきたい。

3 学校運営協議会会長あいさつ

- ・今年度から運営協議会が始まり今年度最後の委員会。先生方の取り組みについて委員としてよりよいものなるような会としたい。

4 議事 【議長 会長】

- (1) 令和4年度ろう学校学校評価アンケート年末結果報告について（教頭）別紙資料の説明。

【ご意見・質問等】

- ・全体的に良い評価。生徒のアンケート結果が中間から年末に向けて良くなっている。学校評価を活用して取り組んでいる。
- ・学校が楽しくないと回答している生徒がいるが、どのような理由があるのか。
→中間評価では2名であったが年末は1名。進路について悩んでいることが影響しているではないか。（教頭）
- ・人工内耳等の活用についても確認していきたい。
- ・少人数でのメリットが生かされている。

- ・教職員の評価が高いように感じる。焦点化した学校評価を検討してもよいのではないか。生徒や保護者は全体を網羅して聞いてよい。
→焦点化していけると良い。(校長)
- ・働き方に対する取り組みをしたが、その検証する必要がある。
→学校評価以外のところで先生方にも要望等の聞き取りを行った。現在その検証についてアンケートを実施している。(教頭)
- ・生徒の言葉をきっかけに話し合い活動等でどのようなことをしていきたいか、教員と一緒に考えていけると良いのではないか。
→学園祭については、生徒が考えたことを表現できたのではないか。そのような機会を作っていきたい。(校長)
- ・児童生徒が自ら企画し実現できるように教員が場所や時間を提供する。異年齢集団の取り組みを考えてはどうか。
→コロナが落ち着いた後、どのようにしていけるか検討したい。(校長)
- ・ICT 機器が将来的に活用していけるツールとなる。発表だけでなく、普段の授業の中でつかっていく。
→文房具のように使っていけるようにしたい。(校長)
- ・幼稚部、小学部においても勤労意識を育てることが必要となる。それがキャリアパスポートの取り組みにつながる。
→数値としてあらわれないとことがある。(校長)
→幼稚部、小学部においても取り組みをしている。(進路)
- ・これからの社会に出ていくにあたっては ICT 活用が必須である。そういう時代である。家庭で触れることがなければ公教育で使用していく必要がある。教員が積極的に使ってみる学校は生徒たちも使えるようになる。
→来年度、児童生徒用のデジタル教科書を使用する。その中でも積極的に ICT を活用していく。教職員による一人一実践等をしている。ICT 支援員も積極的に活用している。(校長)
- ・学習に対して丁寧に指導していただけた。少人数であるため交流等を充実させてほしい。
→交流についてオンライン交流など ICT 活用ができています。日常的に利用していけると良い。可能性が広がるツールである。(校長)
- ・評価が高いものが多いように感じる。その先の目標を考えていくことが必要である。コアな項目もあるため精査する必要がある。

- ・公表することを考え、質問項目を検討していく。
- ・聴覚障害児教育の中での ICT 活用がどのようなものがあるのか検討する必要がある。障害種、支援技術（補聴器・人工内耳等）等の視点をもつ。
- ・給食の安全を確保する必要がある。
 - 保護者には迅速に情報を伝えている。また、安全を確保できるように取り組んでいる。（事務長）

（２）来年度以降のろう学校の課題について

- ・ろう学校の強みを生かす。少人数、0歳児から教育、県唯一のろう学校。学びの場は広がっている。
 - ①生徒と保護者からの考えを聞く。
 - ②図書館を一般公開。読みきかせ。
 - ③課外学習を地域の子供たちと一緒にやる。
 - ④ろう学校の芸術文化活動を地域等に広げていく。
 - ⑤他県のろう学校の交流。メタバースの活用。
- ・交流の行事を増やすことはやめていく方向で良いのではないか。今ある中で内容を工夫する。地域を巻きこむ。
- ・地域の方の参画。（運動会や学園祭等）
- ・地域を知る活動。
- ・先生だけでなく、いろいろな人を頼るような活動を取り入れる。伝統的なかわりかかわりが生まれるとよい。今ある活動の中で生徒に任せることを多くしていく。
- ・伝える機会を作っていく。外部に伝えること。
- ・子供たちに任せてみるのが大切。思考させる機会。最初は難しいかもしれないが、成功体験を積み重ねれば成長する。
- ・強みを生かす。中学生が通信制を選ぶことが多くなっている。多様化してる。特別支援学校も今後どのように発展していくのか。
- ・子供が自分で外に発信していくことが必要。メール等。
- ・経験から学ぶ。間違えないようにすることから思考しながら学んでいくことが必要。
- ・教職員の年齢層の偏りがあるが、学校運営でどのように役割分担していくことも検討する。（校長）
 - 教職員も間違いを恐れずに行動することの必要性

→本日いただいた意見をいかしていきたい。

(3) その他

5 連絡事項

(1) 令和4年度学校評価報告書の評価について（教頭）

（委員の皆様へ）

提出依頼：3月3日（金）までに御提出をお願いいたします。

(2) 令和5年度学校運営協議会委員について

(3) 令和5年度学校運営協議会開催日程について

第1回 4月26日（水）

第2回 11月27日（月）

第3回 2月26日（月）

(4) 学校運営協議会委員の報酬支給について

報酬の支払いは3月となります。

(5) その他

6 その他

7 閉会の言葉（司会）